

アウクスブルクから見る日本

春田 実乃里

はじめに

今回のアウクスブルク滞在での私の研究テーマは、アウクスブルクにある日本関連の施設と、日本とドイツ・アウクスブルクの主に文化面の違いにしました。私が大学で所属している学部の専門分野に文化や民族の共生があることもあり、母国である日本やその文化を別の視点から見てみようと思いました。

視察先 日本庭園、尼崎通り、アウクスブルク大学

まずは、尼崎市青年使節団として訪問した視察先の中から日本に関連したものをピックアップしていきます。

1つ目は、日本庭園です。これは、1985年に尼崎市からアウクスブルク市に贈られたもので、アウクスブルク植物園の中に位置しています。今回アウクスブルクで日本庭園を訪れてみて、植物園の他の展示とも比較しながら見られたので日本庭園の特徴がより鮮明にわかりました。普段日本で生活していても庭園を見に行こうとはなかなか思わないので、こうしてドイツで日本文化について考える機会が得られて良かったと思います。尼崎市と長浜市が共同で贈った「手まりつく少女」の石像もありました。また、こちらの植物園では日本文化を楽しむ「春祭り」が開催されるそうです。ホストシスターに、浴衣を着て春祭りを訪れた写真も見せてもらい、姉妹都市であるアウクスブルクで日本に関する催し物が開かれていると知って嬉しく感じました。



2つ目は、尼崎通り (Amagasaki-Allee) です。いくら姉妹都市であるとはいえ、尼崎の名を冠した通りがあるとは思ってもみなかったもので、初めて知ったときは驚きました。アウクスブルクに「尼崎通り」があるなら、尼崎に「アウクスブルク通り」があっても良いのでは、と感じました。(ちなみに、「アウクスブルク広場」はあります) 3つ目は、アウクスブルク大学です。アウクスブルク大学は関西学院大学、大阪大学などとも提携しており、留学生も多い大学です。このアウクスブルク大学のキャンパス内の池に、なんと日本風の鳥居がありました。独日協会から寄贈されたとのことだったので、帰国してから調べてみると、2009年に贈られたものとわかりました。また、独日協会は設立から既に20年が経過しており、これまで文化面などでさまざまな交流を行ってきたそうです。



ホストファミリーと日本

私が泊まらせていただいたお宅は、ホストマザー、ホストファザー、19歳のホストシスターの3人家族でした。アウクスブルクに滞在していた7日の間に、日本に関する数えきれないほどの質問を受けました。私の家族のことから、日本の食事、教育制度に関することまでさまざまなことを尋ねられ、日本に興味を持ってくださっていることがわかって嬉しかったです。ホストシスターの Laura は昨年のアウクスブルク市使節団の団員だったのですが、日本が大好きらしく、部屋には書道の作品やその他日本に関するものが多く飾られていました。日本のアニメや漫画のキャラクターのコスプレをした写真を見せてもらったり、家にジブリ映画のDVDがあっ一緒に見たりと、とにかく日本にとっても興味を持っているようでした。2年後に日本旅行に行きたい、と今からホストマザーに交渉するほどでした。

また、ホストマザーは知っている日本語の単語(「かわいい」「お父さん」「デザート」など)をたくさん使ってくれました。このようにドイツの方が日本に親しみを持っている様子を見られて、日本のことをもっと

伝えていきたい、と強く思いました。いつか家族で日本に行く、とも言ってください、ホストファミリーの皆さんがこんなにも日本に興味を持ってくださっているから、私もドイツについてもっと学んでいきたい、と感じさせられました。



アウクスブルクの日本料理店

1日目と2日目の夜に、ホストファミリーに日本料理店に連れて行っていただいたのでその様子を書き記しておきます。

1日目に訪れたのは、おにぎりやお寿司など、比較的気軽に食べられる軽食がメインのお店でした。1日目はアウクスブルクに着いたばかりで、朝からアウクスブルクの皆さんがドイツ語で話すのを聞き、日本とは全く違う街並みに感動しつつ圧倒され、楽しいと思いつつもどこか戸惑っていました。そんなときに日本料理を食べに連れて行ってくださり、店員さんに日本人の方がいらっしゃったのでなんとドイツにしながら日本語で注文ができ、日本料理を食べ、とてもリラックスできました。写真を撮り損ねたのが残念ではあるのですが、良い時間を過ごせました。

2日目は鉄板焼きのお店に行きました。日本人の料理人の方(大阪出身だとおっしゃ

っていたと思います)が目の前で前菜から順に調理してくださり、日本料理を間近で体験できるお店でした。このお店はホストシスターの行きつけのお店らしく、今回は私が注文を頼まれましたが、普段は彼女が日本語で注文しているそうです。1人の料理人の周り270°くらいに鉄板が広がり、10人弱のお客さんで囲んで食べるスタイルでした。私たちのテーブル以外のところでもそれぞれ料理人とお客さんが話をしたりしながら盛り上がっていて、とても良い雰囲気でした。こちらでも写真を撮り忘れてしまったのですが、ホストマザーが「お土産に」と言って1日目も2日目もお店のカードを取ってきてくださったので、その写真を代わりに貼っておきます。



ちなみに、他にも日本料理店はいくつかあるそうですが、ホストシスターによるとこの2つのお店が一番良いらしいです。

Be German!

5日目(ホストファミリーとの一日)に、ショッピングのあとカフェのような場所で軽食をとったのですが、私が何を頼むか迷っていたところ、ホストマザーにこのようなことを言われました。「私は日本のとは全然違うサンドイッチを頼むから、少し分け

てあげるね。気に入ったらそれを頼めばいい。でも気に入らなかつたらはっきり好きじゃないって言って。別のものを頼めるから。日本人らしく遠慮なんてしないで、今は物事をはっきり言うドイツ人の気持ちになって」

実際にサンドイッチを食べてみると、あまり好きな味ではなかったので「申し訳ないんですが好きじゃありません。別のものを頼みたいです」と言うと、「ちゃんと調べてくれた! I'm proud of you!」と言われました。

アウクスブルクに着いてから、気を遣って遠慮したりしてきたつもりはなかったのですが、ドイツの方からすればはっきりしない話し方をしていたのかもしれない。ホストファミリーの方をはじめとして、アウクスブルクでは多くの現地の方とお話しする機会がありましたが、皆さん自分の思っていることはきちんと伝えていて、曖昧な返事をしたり言葉を濁したりする人はほとんどいらっしやらなかったように思います。控え目さ、慎ましさは日本では美徳とされてきて、最近はそういった風潮が昔に比べたら薄れてはきているかもしれませんがまだ根強く残っています。自分が無意識のうちに気を遣いながら話していたと知って、日本ならではの気遣いを忘れないようにしつつ、自分の意見をよりはっきりと言えるようにしていきたいと思いました。

おわりに

以上のように、今回のアウクスブルク滞在ではアウクスブルクで感じた日本について、少しではありますが調べてみました。母国である日本が、遠いヨーロッパでも親

しみを持たれていることを肌で感じられたと同時に、日本を新たな別の視点から見ることができました。今後は、今回得られたことを基盤に、多文化・多民族の共生についても学んでいきたいと思っています。そして、姉妹都市交流にこれからも貢献していければ、と思います。

また、これを読んでアウクスブルクに興味を持ってくださった方がもしいらっしゃいましたら、次の尼崎市青年使節団として、あるいは旅行でぜひ行って見て、自分の目で、耳で体感してほしいと思います。

